

第2章 環境の現状

3-6 環境に関する市民意識



かすみがうら市 環境に関する市民意識調査（アンケート）回収数

	回収数(紙)	WEB 回答数	合計	配布数	回収率
5年生	110	128	238	306	78%
8年生	72	205	276	353	78%
市民	212	234	446	1,248	36%
事業所	30	13	43	93	46%
回収数	424	580	1,004	2,000	50%

1 環境問題について

問A あなたは、環境問題にどれくらい関心がありますか。

	5年生(%)	8年生(%)	市民(%)
とても関心がある	19.3	13.0	28.7
やや関心がある	69.3	73.9	65.2
関心がない	10.1	11.6	4.9
無回答	1.3	1.4	1.1

年齢別に比較してみると、市民と8年生とでは「とても関心がある」の回答が15.7%の差がありました。「関心がない」と回答した市民の回答に対し、子どもたちからの「関心がない」と回答が約2倍となっていることから、子どもたちの環境意識に比べて、市民の環境意識が高い結果となりました。しかしながら「やや関心がある」も含めると、環境問題に対する意識は高く、約9割が関心を抱いている結果となりました。

問B 貴事業所では、環境問題に取り組んでいますか。またその理由は何ですか。

	事業所(%)
取り組んでいる	81.4
これから取り組む予定	2.3
取り組んでいない	14.0
分からない	0.0
無回答	2.3
その他	0.0
事業所としての社会的責任を果たすため	65.1
社会や地域への貢献による事業所のイメージアップ	18.6
従業員教育の一環として	11.6
経費削減に効果が期待できるため	18.6
親会社、グループ企業、顧客など取引先からの要請	39.5
法律、条例への対応	46.5
無回答	14.0
その他	0.0

第2章 環境の現状

環境問題について取り組んでいる事業所が80%以上もあり、本市全体で環境問題についての関心がかかなり高いことがわかります。さらに取り組んでいる理由については、「事業所としての社会的責任を果たすため」が最も多く、次いで「法律、条令への対応」、「親会社、グループ企業、顧客などの取引先からの要請」が多い結果となりました。

問C 次の中に、あなたが気になっている環境問題はありますか？あてはまるものを3つまで選んでください。

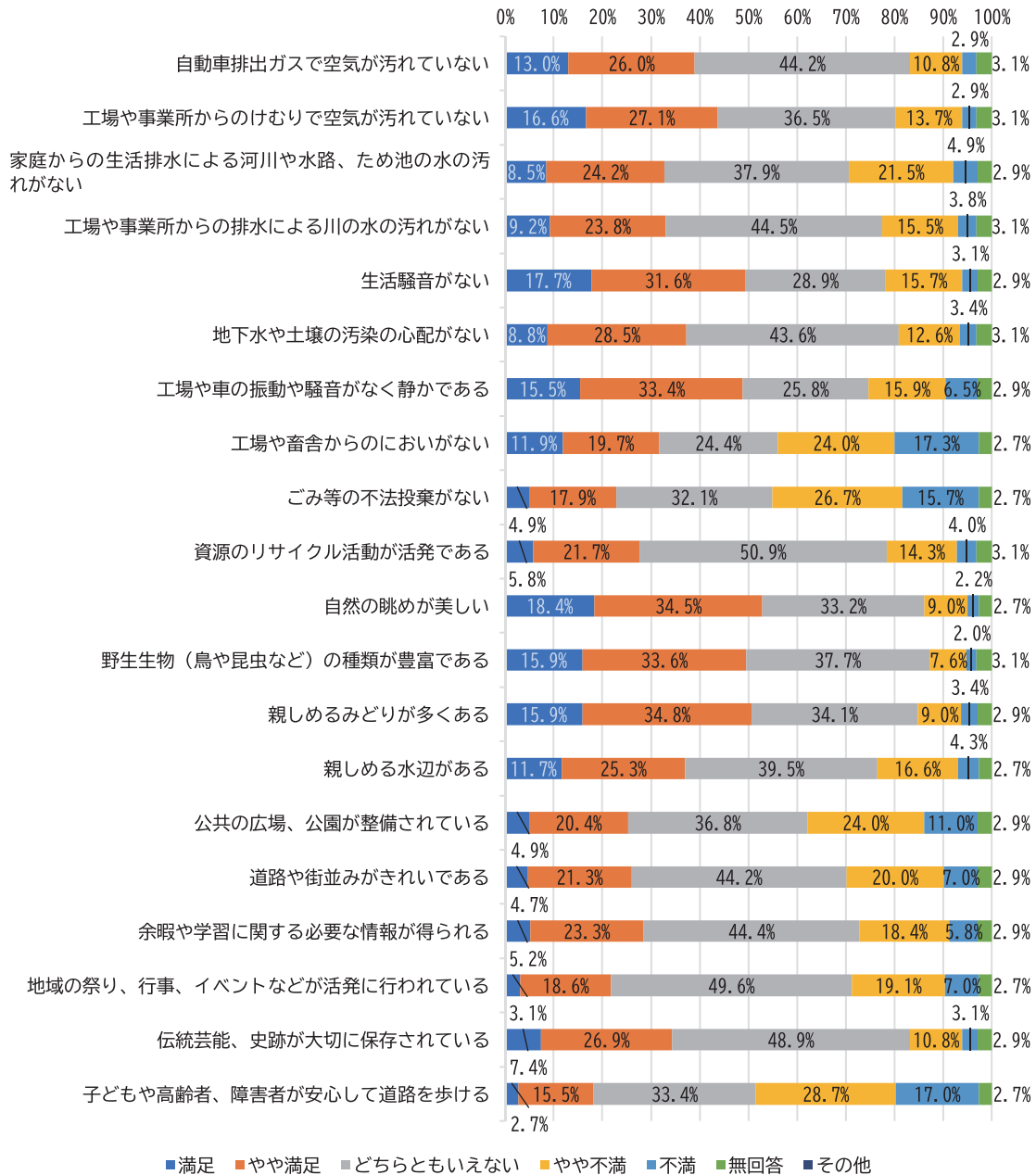
	5年生(%)	8年生(%)	市民(%)
地球温暖化による気候の変化	68.9	67.4	75.3
オゾン層の破壊による紫外線の増加	8.4	10.5	20.4
食べられるのに捨ててしまう食品の問題 (食品ロス問題)	50.0	42.0	43.5
資源・エネルギーが無くなってしまふ	18.1	16.3	22.4
工場や自動車の排ガスなどによる空気の汚れ (大気汚染)	20.2	9.8	9.0
湖や河川、海の水が汚れる(水質汚濁)	22.7	28.3	16.6
ごみの処理やリサイクルの問題	20.6	14.1	13.7
ごみの不法投棄	8.0	17.8	13.2
農薬などによる土壌・地下水汚染	2.9	1.4	2.9
暮らしの中の騒音や振動	1.7	3.6	2.9
工場の建設や山への太陽光発電の設置による 自然破壊	3.8	2.5	11.2
熱帯雨林の減少	3.4	2.5	2.7
農薬などによる動物や植物への影響	6.3	3.6	2.5
砂漠化の進行	6.3	6.9	2.7
酸性雨による森林破壊などの被害	5.9	6.2	2.0
生活の中にある身近な自然の減少	4.2	7.2	4.9
野生生物や珍しい動物や植物の減少	10.1	15.9	3.4
荒れた里山・農地・空き地(家)の増加	1.3	2.9	20.0
マイクロプラスチックごみ問題	15.5	18.1	20.0
無回答	0.4	1.1	0.9
その他	0.4	0.7	0.9

5年生、8年生、市民の回答は全体的に非常に似通った回答となり、5年生、8年生、市民それぞれが共通して最も関心のある環境問題は「地球温暖化による気候の変化」となりました。次いで、「食品ロス問題」に関心が集まっていました。その次に関心の高い環境問題は対象によって異なっており、5年生と8年生は「水質汚濁」だったのに対し、市民は「資源・エネルギーが無くなってしまふ」の回答が多くなりました。子どもたちにとっては、遊び場所として身近な水環境が心配なのに対して、市民は生活に直結する資源・エネルギー問題に着目していることが分かります。

一方で、市民と5年生、8年生で差が大きく開いたものは「荒れた里山・農地・空き地(家)の増加」であり、市民からの回答が多い結果となりました。

第2章 環境の現状

問D 現在住んでいる地域の身近な生活環境についての程度満足していますか。(市民)



「工場や畜舎からのにおいがいい」、「ごみ等の不法投棄がない」、「公共の広場、公園が整備されている」、「子どもや高齢者、障害者が安心して道路を歩ける」の項目は「やや不満」、「不満」とする回答の方が満足層より多い結果となりました。

一方で、それ以外の項目は「満足」、「やや満足」とする回答の方が不満層より多く、全体的に「どちらともいえない」とする回答が半数近くを占めていました。特に「自然の眺めが美しい」、「親しめるみどりが多くある」の項目では、満足層が50%を超えていました。

第2章 環境の現状

問E かすみがうら市は、将来、どのような環境のまちであつたらいいなと思いますか。あてはまるものを3つ以内で選んでください。

	5年生(%)	8年生(%)	市民(%)
豊かな緑や水辺に囲まれたまち	71.8	68.5	49.6
多くの野生生物が身近にすむまち	29.8	14.5	9.9
太陽光・風力発電など自然エネルギーのあるまち	19.3	19.2	17.9
リサイクルが進み、ごみの少ないまち	32.8	30.4	25.6
豊かな自然景観のあるまち	36.6	39.9	40.1
ごみの散乱や不法投棄がないきれいなまち	27.7	38.8	52.0
歴史的・文化的建造物を保存し引き継ぐまち	15.5	15.9	11.7
伝統的な行事を引き継ぐまち	13.0	21.0	6.3
市民、事業者、行政が協力して環境保全を進めるまち	19.7	14.9	29.1
多くの人観光に訪れるまち	18.1	21.7	17.5
無回答	0.4	1.1	1.6
その他	1.7	1.4	2.0

5年生、8年生ともに最も多く回答されたのは「豊かな緑や水辺に囲まれたまち」でした。市民も同様の回答が二番目に多くありましたが、市民の回答で最も多かったのは「ごみの散乱や不法投棄がないきれいなまち」でした。この回答は、8年生で3番目、5年生で5番目に多く、全体的に関心が高まっていることがわかります。

一方で、「多くの野生動物が身近に住むまち」と回答した5年生が約30%だったのに対し、市民は約10%の回答との結果となり、「ごみの散乱や不法投棄がないきれいなまち」の回答においても、全体的に回答率は高かったものの、5年生と市民とで2倍ほどの差があり、「伝統的な行事を引き継ぐまち」と回答した大人は6.3%と全体で最も少なかったですが、8年生からは21%もの回答が得られました。かすみがうら市に求められる環境は、市民も子どもも同様に「豊かな緑や水辺に囲まれたまち」、「ごみの散乱や不法投棄がないきれいなまち」となりました。

問F 環境を良くしていくために、今後、かすみがうら市はどのような施策や取り組みを進めていくべきだと思いますか。あてはまるものを3つ以内で選んでください(市民)

	市民(%)
大気汚染や水質汚濁などの公害防止の対策	34.1
自動車による環境負荷の軽減	6.5
ごみの減量化・リサイクルの推進	25.3
ごみの散乱・不法投棄対策	44.2
省エネルギー対策や新エネルギー導入に対する支援システムの構築	18.2
環境教育・環境学習の充実	19.5
環境活動団体の情報提供や活動支援	6.3
貴重な動植物の生息地の保全	9.9
公園の整備や歴史文化的遺産の保全	33.0
里山、水辺等の豊かな自然環境の再生や保全	31.6
環境に配慮した企業活動の奨励	13.5
環境に配慮した農業の推進	14.3
無回答	2.0
その他	3.4

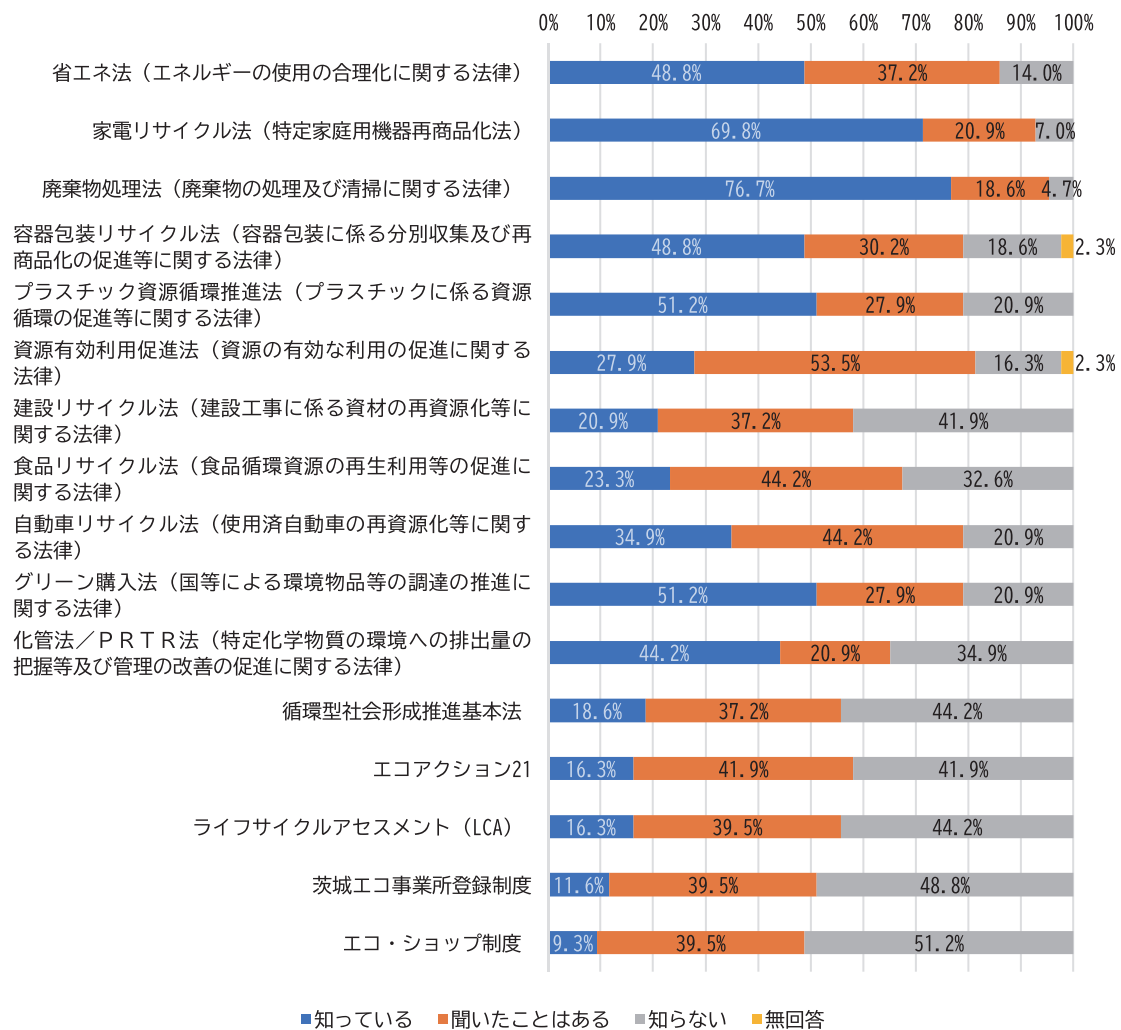
第2章 環境の現状

問G 環境保全へ向けて、今後、かすみがうら市はどのような施策や取り組みなどが必要と
思われますか。3つ以内で選んでください。(事業所)

	事業所(%)
環境保全施策の具体的な事業の実施	48.8
条例による規制	23.3
技術的な指導や講習会の実施、斡旋(あっせん)	32.6
技術や製品に関する情報の提供	23.3
税制上の優遇措置	51.2
補助金の交付	62.8
無回答	0.0
その他	2.3

事業所を対象に行ったアンケート結果から、半数以上の事業所が今後の施策として「補助金の交付」と「税制上の優遇措置」を求めていることが分かります。また、その次に半数近くが「環境保全施策の具体的な事業の実施」が挙げられていました。

問H 貴事業所は、環境と企業のあり方に関する次のような法律、制度をご存知ですか。



第2章 環境の現状

「廃棄物処理法」、「家電リサイクル法」は90%以上の事業所が「知っている」、または「聞いたことがある」と回答しています。さらに約80%の事業所が「省エネ法」、「資源有効利用促進法」、「プラスチック資源循環推進法」、「自動車リサイクル法」、「グリーン購入法」、「容器包装リサイクル法」を認知していることが分かります。

一方で、「エコ・ショップ制度」や「茨城エコ事業所登録制度」に関して「知らない」と回答した事業所が半数以上であり、環境に関する法律についてはある程度知られていても、環境保全という切り口で事業を展開する制度に関しては、あまり知られていないことが分かります。

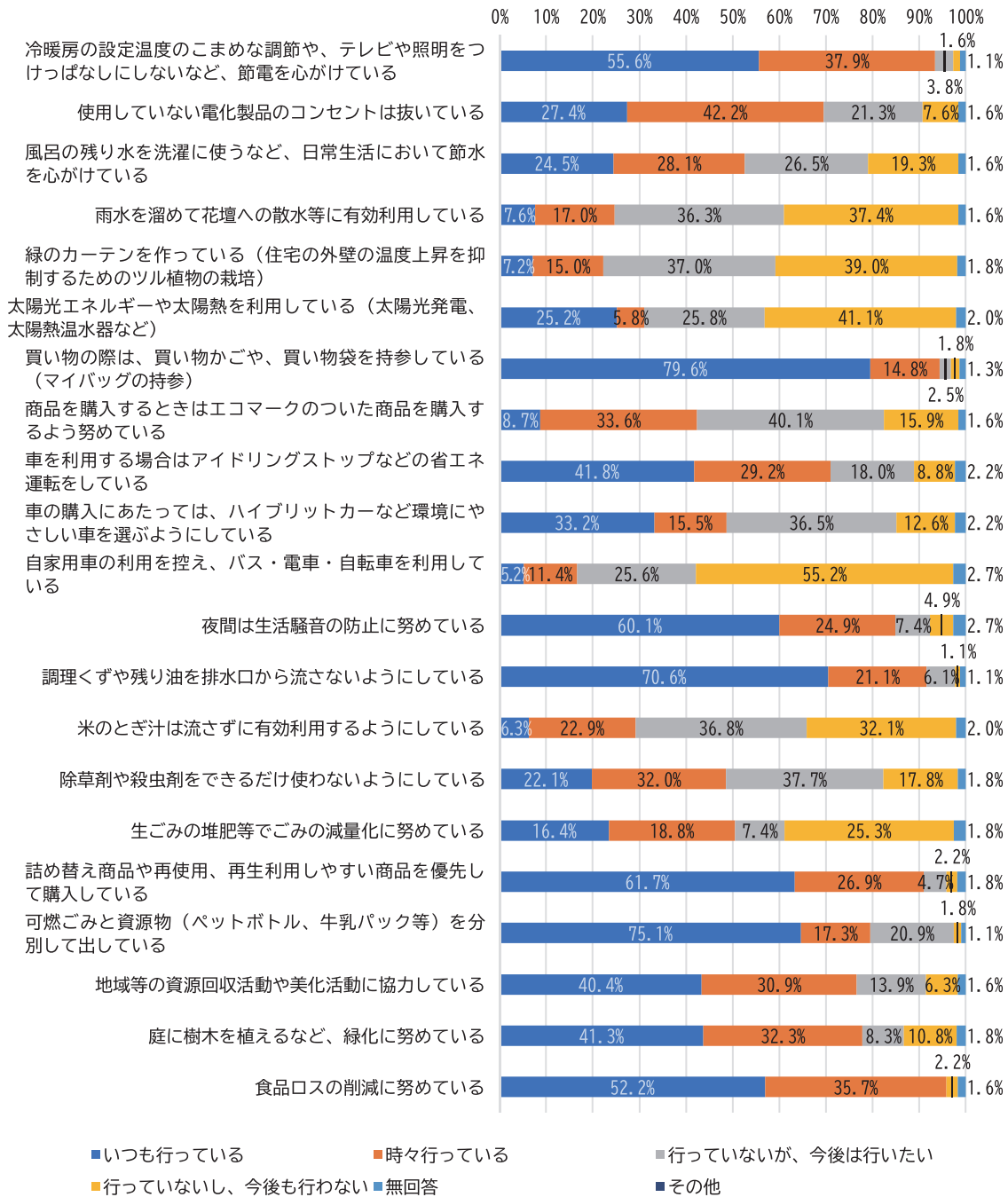
問Ⅰ 自治体の再生可能エネルギー導入の取り組みとして、次のような具体的導入案が考えられますが、今後、かすみがうら市ではどのようなものに優先的に取り組む必要があると思いますか。必要があると思うものを3つ以内で選んでください。(事業所)

	事業所(%)
公共又は民有地への太陽光発電の導入	32.6
公共又は民有地への地熱利用システムの導入	18.6
公共又は民有地への森林・農畜産業副産物など地域資源を利用したバイオマス発電	23.3
CO ₂ 排出の少ない発電による熱利用と固形燃料の製造	14.0
公用車へのハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車等の次世代自動車導入	23.3
燃料電池車普及促進と水素ステーションの設置	30.2
災害時のエネルギー供給源としての水素利活用設備導入	20.9
学校などへのペレットストーブの導入	7.0
防災等非常電源としてバイオマス発電による蓄電施設の導入	16.3
河川水路等での中小水力発電の導入	14.0
ごみ処理場などでの廃棄物発電・熱利用・燃料製造	44.2
菜の花やケナフなどCO ₂ が出ない燃料となる作物の栽培	2.3
無回答	2.3

最も多かったのは「ごみ処理場などでの廃棄物発電・熱利用・燃料製造」となり、廃棄物処理法等の認知度が高かったことから、事業所の多くが廃棄物をエネルギーなどに利用できないか検討していることが考察できます。

第2章 環境の現状

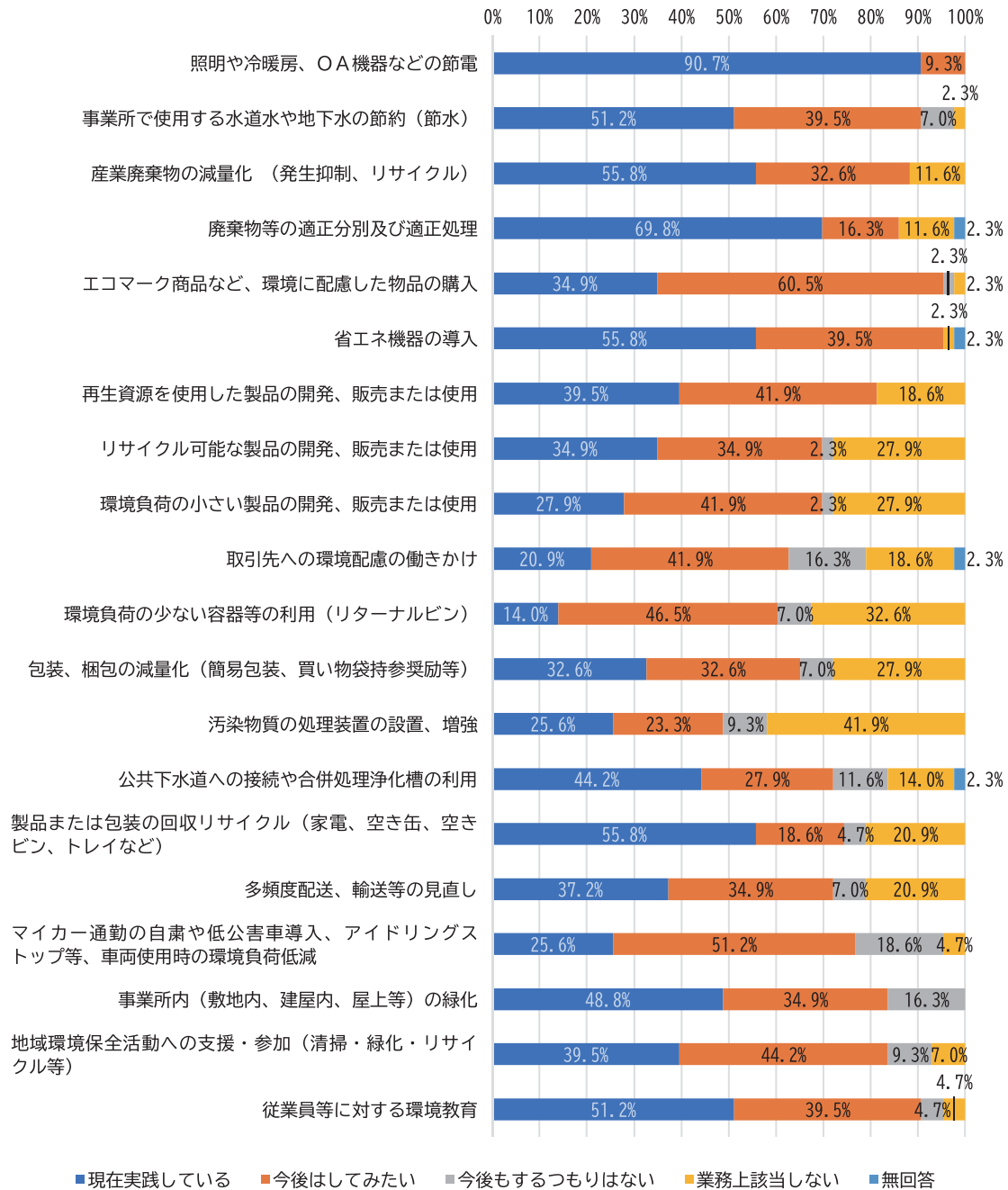
問J 地域の生活環境の改善や地球の環境を守るために、日常生活の中でどのような取り組みを行っていますか。(市民)



市民の取り組みとして回答が多かったものは「マイバッグ」、「こまめな節電」、「料理くずや油を排水溝から流さない」、「資源ごみの分別」等、日常的に取り組みやすい物です。これに対し、最も「行っていないし、今後も行わない」の回答が多かったのは「自家用車の利用を控え、バス・電車・自転車を利用している」となりました。
 今後は、更なる公共交通機関の利用について、普及啓発が必要となっていくことが考えられます。

第2章 環境の現状

問K 貴事業所では、環境問題の解決ないし環境負荷低減のため、現在次のことを実施していますか。また、今後実施してみたいと思いますか。（事業所）

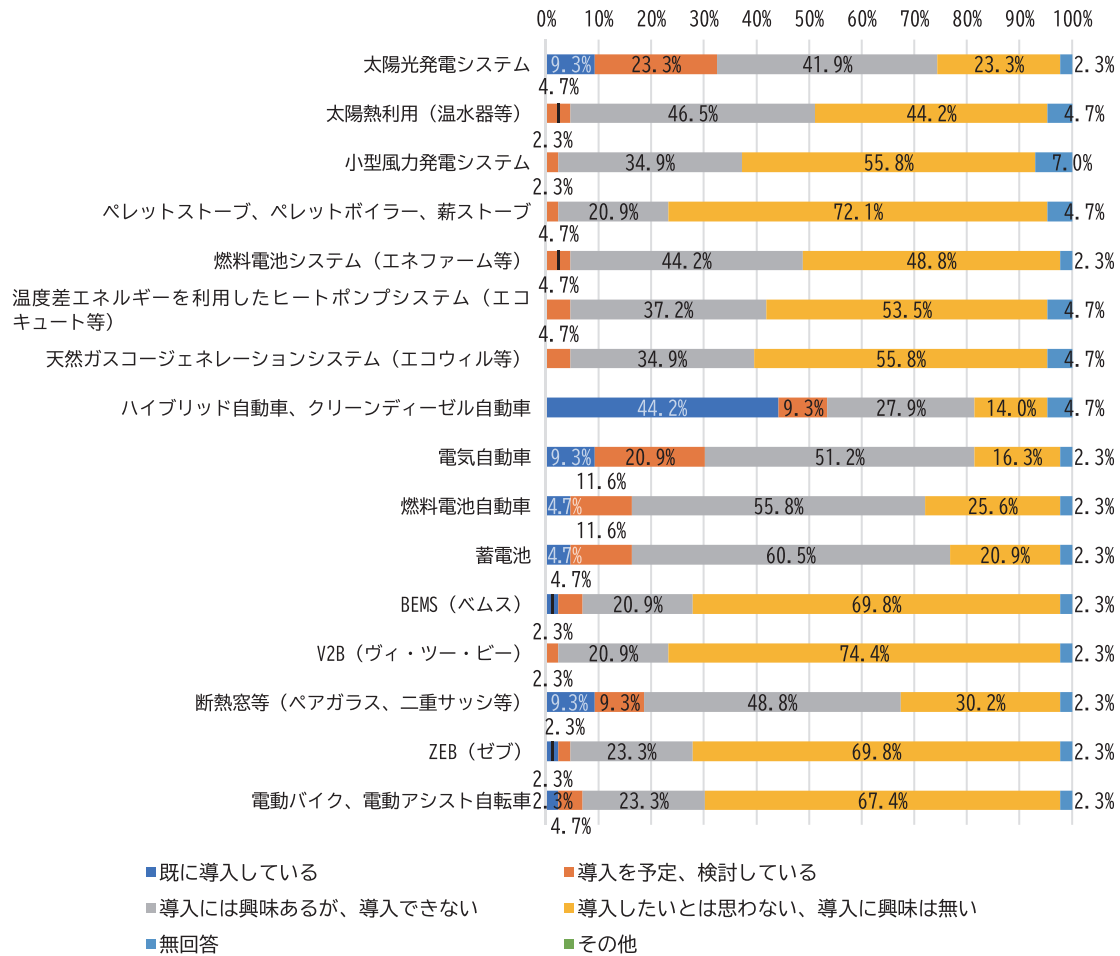


アンケートを行ったすべての事業所が「照明や冷暖房、OA機器などの節電」を「現在実践している」、「今後はしてみたい」と肯定的に回答していました。

一方で、「マイカー通勤の自粛や低公害車導入、アイドリングストップ等、車両使用時の環境負荷低減」に関しては、肯定的な回答は多かったものの、「今後もするつもりはない」の回答数も最も多い結果となりました。

第2章 環境の現状

問L-1 貴事業所で、再生可能エネルギーを用いた設備や省エネルギーにつながる設備を導入されていますか、もしくは導入したいと思いますか。(事業所)



全体的に「導入したいとは思わない、導入に興味がない」の回答が多く、その次に「導入には興味あるが、導入できない」の回答数が続いています。その中で、「ハイブリッド自動車、クリーンディーゼル自動車」を「すでに導入している」事業所が44.2%もいることや、「電気自動車」を「すでに導入している」または「導入を予定、検討している」事業所が約30%もいることから、環境意識が低いわけではなく、導入しやすいものから取り組んでいることが分かります。

今後は、「導入には興味があるが、導入できない」と回答した事業所をサポートしつつ、「導入したいとは思わない、導入に興味は無い」と回答した事業所の関心を高めることが重要となっていくと考えられます。

問L-2 「すでに導入している」、「導入を予定、検討している」に○を付けた事業所にお伺いします。どのような理由で導入された（することを検討している）のですか。

	事業所(%)
地球温暖化対策などに貢献したいから	20.9
光熱費・燃料費の削減を図れるから	32.6
宣伝・PR効果、従業員の意識向上のため	0.0
導入に際して助成制度があったから	2.3
新しい技術に関心があるから	4.7

第2章 環境の現状

問L-3 「導入に興味はあるが、導入できない」に○を付けた方にお伺いします。どのような理由で導入できないのですか。(事業所)

	事業所(%)
設備にかかる費用が高いから	62.8
助成制度が充実していないから	0.0
仕組みや装置がよく分からないから	7.0
設備の耐久性・性能に不安があるから	7.0
建物の外観が損なわれるから	2.3
無回答	7.0
その他	2.3

これらの回答から、導入した理由もできない理由も最も大きいのは金銭面的な面であることが分かります。また、問Gにおいても事業所が求めている施策や取り組みで最も多かったものは「補助金の交付」で、次に「税制上の優遇措置」でありました。

このことから、今後は環境保全に関する補助金等の情報提供なども重要となってきます。

2 気候変動について

問M あなたは、地球温暖化に伴う影響が進んでいると思いますか。

	5年生(%)	8年生(%)	市民(%)
すごく進んでいると思う	38.7	46.0	66.1
進んでいると思わない	6.7	4.7	4.5
ある程度進んでいると思う	34.0	35.5	26.9
分からない	18.9	11.6	1.8
無回答	1.3	2.2	0.7

問N あなたは、地球温暖化の影響(気候変動)で不安に感じることはありますか。あてはまるもの3つまで選んでください。

	5年生(%)	8年生(%)	市民(%)
海面の上昇による陸地の消滅	41.2	46.0	32.5
異常気象による干ばつや大洪水など災害発生 (水害や渇水の危険性の増大)	29.8	33.3	68.2
気候の変化による農業、漁業への影響 (不作・不漁、病害虫の異常発生など)	43.3	40.9	48.4
気候の変化による生態系への影響 (動植物の生息域の変化、種の絶滅など)	32.8	31.5	23.3
気候の変化による健康への影響 (感染症の拡大など)	44.1	36.2	26.2
熱暑による冷房などエネルギー使用量増加に ともなう家計負担への影響	23.9	36.6	33.0
飲料価格上昇による家計負担への影響	48.3	44.9	34.8
不安に感じることはない	5.9	3.3	2.5
無回答	1.3	0.7	1.6
その他	2.5	1.8	1.1

第2章 環境の現状

地球温暖化が進んでいると思うと回答した割合は年齢が上がるにつれて高くなる傾向がありました。特に市民は66%が「すごく進んでいると思う」と回答しており、合計で約90%の人が地球温暖化の影響を感じています。

また、市民の多くが「異常気象による干ばつや大洪水など災害発生」を危惧しており、水問題がより身近で重要な問題であることが考えられます。

問〇 気候変動の影響（気候変動）は、将来大人になった時に、もっと大きくなると言われています。次の分野の中で、将来心配なのはどの分野ですか。あてはまるもの3つまで選んでください。（5年生・8年生）

	5年生(%)	8年生(%)
農業・水産業 (米や果物など農作物の品質が下がり、採れなくなる)	56.7	59.4
水環境・水資源(水温の上昇で海・湖・川の水質が悪化する、雨が降らず水不足になる)	41.2	34.4
自然生態系(さまざまな生き物が暮らしにくくなり、絶滅の恐れが高まる)	44.1	44.9
自然災害(大雨により土砂災害や浸水被害が増える)	45.4	46.0
健康(猛暑により熱中症患者が増える、病気をうつす蚊がすむ地域が広がる)	48.7	46.4
産業・経済活動(大雨により工場や建物が浸水して、生産や物流が止まってしまう)	19.7	22.5
国民生活・都市生活(大雨により下水道などがあふれてしまう)	17.2	19.6
無回答	1.3	1.4
その他	0.4	0.7

5年生、8年生ともに非常に似通った回答となりました。「農業・水産業(米や果物などの農作物の品質が下がり、採れなくなる)」に対する回答が最も高く、約60%の子どもたちが将来心配であると回答しています。また、その次に「健康(猛暑により熱中症患者が増える、病気をうつす蚊がすむ地域が広がる)」、「自然災害(大雨により土砂災害や浸水被害が増える)」、「自然生態系(さまざまな生き物が暮らしにくくなり、絶滅の恐れが高まる)」の回答が多くなりました。

全体的に回答数が近く、気候変動の影響に関してはかなりさまざまな不安があると考えられます。その中でも、食料や健康といった身近な問題が最も多く心配されています。

問P-1 あなたは、「気候変動適応策」についてご存じでしたか。(市民)

	市民(%)
言葉も内容も知っている	14.8
言葉は知っている	43.0
知らない	39.7
無回答	2.5

第2章 環境の現状

問P-2 貴事業所は、気候変動や適応策に関心を持っていますか。(事業所)

	事業所(%)
とても関心がある	27.9
やや関心がある	32.6
どちらとも言えない	14.0
あまり関心がない	9.3
分からない	14.0
無回答	2.3

気候変動適応策という言葉の認知度は、市民の約60%が知っており、また事業所も全体で60%が関心があると回答していることから、気候変動適応策についてはある程度浸透しつつあると考えられます。

一方で、「知らない」と回答した方も40%近くおり、事業所も「どちらともいえない」、「あまり関心がない」、「分からない」の合計も37.3%と少なくない結果となりました。気候変動適応策について、より認知してもらうことも重要となってきます。

問Q-1 地球温暖化に伴う影響(気候変動)に対処するために「かすみがうら市」が優先的に進めていくべき対策はどれだと考えますか。(5年生・8年生)

	5年生(%)	8年生(%)
農作物の品質低下や収穫量の減少など(農業)	17.6	29.0
野生生物の減少や植生の変化など(生態系)	22.7	22.1
台風や梅雨前線などによる集中豪雨・洪水など(自然災害)	13.0	20.3
熱中症の増加や、感染症の増加など(健康)	35.7	19.6
特にない	5.9	6.5
無回答	1.3	1.4
その他	1.7	0.4

問Q-2 気候変動に対処するために市が優先的に進めていくべき適応策はどの分野だと考えますか。(市民、事業所)

	市民(%)	事業所(%)
農作物の品質低下、収穫量の減少など(農業・林業・水産業)	18.3	7.0
河川等の水質の低下、富栄養化の増加など(水環境・水資源)	7.8	14.0
野生生物の減少、植生の変化など(自然生態系)	3.0	0.0
台風や梅雨前線等による集中豪雨・洪水など(自然災害・沿岸域)	28.7	34.9
熱中症の増加、感染症の増加など(健康)	12.6	18.6
平均気温の上昇による生産活動や生産設備への影響など(産業・経済活動)	8.0	9.3
ヒートアイランド現象による気温上昇、快適性の損失など(国民生活・都市生活)	11.7	2.3
特にない	5.7	7.0
無回答	3.9	0.0
その他	0.2	4.7

第2章 環境の現状

子どもと市民、事業所とで優先的に進めるべきと考える適応策が異なっています。子どもで最も多かったのは「健康」、次いで「農業」となりましたが、全体的に関心が高く回答は分散していました。

一方で、市民事業所共に「自然災害」への回答が最も多くなっていました。また、子どもたちからはある程度重視されていた生態系分野においては、大人からの注目度は低い結果となりました。

問R 地球温暖化の進行を抑えるためには、どうすればよいと思いますか。あてはまるものを3つ以内で選んでください。(市民)

	市民(%)
一人ひとりが、節電などエネルギー消費を抑えた生活を進めればよい	44.6
個人や家庭レベルでできる具体的な対策を行政やメディアを通して、さらに普及させればよい	29.4
太陽光発電など新エネルギーや再生可能エネルギーの普及を政策的に行えばよい	39.2
太陽光発電など新エネルギーや再生可能エネルギーの普及を個人や企業レベルで進めていけばよい	16.4
まず、便利さを追い求めてきた社会全体のエネルギー利用のあり方を見直すことが先決である	35.7
CO ₂ (二酸化炭素)を吸収する森林を育てればよい	25.3
環境税などを導入し、経済的手法でエネルギー利用の需要を抑制すればよい	5.6
再生可能エネルギーの技術革新に国を挙げて取り組むべきである	45.7
無回答	1.8
その他	3.1

問S 気候変動への適応策や緩和策について日頃から取り組んでいること、または取り組んだことがあることはどれですか。(市民)

	市民(%)
災害への備え(防災グッズなど)	45.1
防災情報などの確認(ハザードマップなど)	27.4
異常高温対策(打ち水など)	20.0
感染症予防(長袖着用、蚊帳など)	23.5
熱中症対策(水分補給など)	69.7
省エネ対策(エコカー、省エネ家電など)	40.4
再生可能エネルギーの導入	8.7
リサイクル・3R	35.0
木を植えるなど	21.3
何もしていない	4.7
無回答	2.5
その他	0.4

市民に対しての、地球温暖化の進行を抑えるための取り組みでは、「再生可能エネルギーの技術革新」に対する回答が多い結果となりました。次いで、「市民の省エネの取り組み」への回答が多くなりました。

気候変動への日常的な取り組みとしては、「熱中症対策」が半数以上の回答となりました。

第2章 環境の現状

3 生物多様性について

問T あなたは「生物多様性」という言葉をどの程度知っていますか。

	5年生(%)	8年生(%)	市民(%)
言葉の意味を知っている	8.8	10.1	20.6
言葉を聞いたことがない	20.6	19.9	15.7
意味は知らないが、言葉は聞いたことがある	36.6	45.7	40.1
分からない	31.9	22.1	21.5
無回答	2.1	2.2	2.0

5年生、8年生、市民を対象に行ったアンケートの結果から、言葉の意味は知らなくとも聞いたことがあると回答した数が全体的に最も多いことがわかります。また、市民は20%の人が言葉の意味を知っていると回答しており、生物多様性が5人に1人の割合で浸透していることがわかりました。

一方で、「言葉を聞いたことがない」、「分からない」と回答した5年生の割合は50%を超えており、8年生も約40%が回答しています。このことから、約半数の子どもたちにはまだ生物多様性という言葉が認知されておらず、生物多様性保全について今後さらに広めていく必要があると考えられます。

年齢が上がるにつれて生物多様性について知っている割合が多いことから、若い世代に向けた情報発信が必要であると考えられます。

問T 次の生きもののうち、家の近くや通学路、遊び場にはどんな生きものがいますか。あてはまるものすべて選んでください。(5年生・8年生)

	5年生(%)	8年生(%)
ホタル	13.4	10.1
カブトムシ	56.7	45.3
チョウ	89.1	87.7
トンボ	84.5	88.0
メダカ	33.2	29.7
ドジョウ	17.2	17.8
カエル	68.1	68.5
ヘビ	45.0	38.0
ヒバリ	11.8	8.3
ツバメ	70.2	53.3
フクロウ	11.8	8.7
キツネ	5.9	3.6
タヌキ	35.3	30.1
イタチ	17.6	20.7
無回答	0.8	2.2
その他	55.0	34.1

第2章 環境の現状

問U 10年後、どんな生きものが「かすみがうら市内」で増えるといいなと思いますか。
あてはまるもの全てを選んでください。(5年生・8年生)

	5年生(%)	8年生(%)
ホタル	67.2	56.2
カブトムシ	38.2	31.9
チョウ	58.0	37.7
トンボ	50.4	30.8
メダカ	47.5	37.3
ドジョウ	21.8	17.0
カエル	24.8	21.0
ヘビ	15.5	15.2
ヒバリ	34.5	31.9
ツバメ	53.8	42.4
フクロウ	40.3	45.7
キツネ	34.9	36.6
タヌキ	24.8	26.8
イタチ	21.8	21.4
無回答	1.7	2.2
その他	14.3	6.2

問T その他の回答(身の回りで見かける生きもの)

	5年生(票)
イノシシ	20
キジ	16
カラス	12
ネコ	12
カメ	8
イヌ	7

	8年生(票)
イノシシ	12
ハクビシン	5
ネコ	4
カラス	3
キジ	3
ダンゴムシ	3

第2章 環境の現状

問U その他の回答（増えてほしい生きもの）

	5年生(票)
ネコ	6
イヌ	4
特にいない	4
キジ	3

	8年生(票)
ネコ	2
どうでもいい	2
今のままでいい、増えてほしくない	2

問V 地球温暖化によって、もともと「かすみがうら市」には住んでいなかったような、南の地方の生きものが、「かすみがうら市」に住みつくようになっているということを知っていますか。（5年生・8年生）

	5年生(%)	8年生(%)
聞いたことがあり、意味も知っている	15.1	18.5
聞いたことはあるが、意味はよく知らない	26.9	18.8
知らない	57.6	61.6
無回答	0.4	0.7

増えてほしい生きものにネコやイヌと回答する子どもが一定数いることや、外来種問題について知らないと回答する子どもが約60%もいることから、生物多様性についての情報が子どもたちに浸透していないことが分かります。また、投票の割合に5年生と8年生で大きな差が見られないことから、チョウやトンボなどの昆虫が多く生息しており、逆にホタルを見たことのない子どもが多いことが分かります。加えて子どもたちの半数以上がホタルの数が増えてほしいと回答しており、生物多様性についての意識は芽生えていると考えられます。

問W 自然やたくさんの生きものを守っていくために、今、自分ができること・したいと思う事は、どんなことですか。あてはまるもの全てを選んでください。

（5年生・8年生）

	5年生(%)	8年生(%)
自然や生きもの大切さを家族で話し合ったり、友達に伝える	43.3	22.8
生きものの生息する場所（ビオトープ）をつくる	44.1	37.7
エネルギーや水、ものを大切に使う	78.2	68.8
身近な自然を調べてみる	37.4	35.1
動物や植物をとらず、観察するだけにする	51.3	37.0
「かすみがうら市」以外からつれてきた動物を「かすみがうら市」の自然に放さない	40.8	27.9
無回答	1.3	1.4
その他	0.8	1.8

第2章 環境の現状

問X 自然な環境とこれからも一緒に生きていくためには、どのようなことが大切だと思いますか。3つまで選んでください。(5年生・8年生)

	5年生(%)	8年生(%)
さまざまな自然環境を守っていく	78.6	66.7
絶滅の恐れのある生きものや希少な野生生物の生息地を保全する	56.3	55.1
生きものの保護や自然環境の保全に努める団体や企業を支援する	20.6	23.2
国立公園や自然公園などを利用し、自然と触れ合う機会を増やす	23.9	26.4
失われた自然を徐々に再生し、できるだけもとの姿に戻していく	35.7	37.7
外来生物を駆除し、健全な生態系を維持する	29.0	21.7
農薬や肥料を減らした農業を進めていく	15.1	15.2
今ある自然に任せて放っておく	5.5	2.5
バイオマスエネルギーを積極的に使うようにする	8.0	10.9
ある程度自然に任せて放っておく	10.1	6.9
自然や生きものに関する啓発普及を積極的に行う	0.4	4.3
無回答	0.0	1.1
その他	0.0	0.7

半数以上の子どもが「さまざまな自然環境を保全する」、「絶滅の恐れがある生きものや希少な野生動物の生息地を保全する」と、生物多様性を保全する上で欠かせない事柄に対して「大切だと思う」と答えており、次いで「失われた自然を徐々に再生し、できるだけもとの姿に戻していく」が高くなっています。

問Y 生物多様性保全のための優先的取り組みとして、あてはまるものを1つ選んでください。(市民、事業所)

	市民(%)	事業所(%)
森林の手入れと担い手の育成	26.9	25.6
外来生物の駆除	28.5	27.9
環境教育の充実	14.0	23.3
環境保全型農業の普及	5.7	7.0
生物多様性の啓発	8.8	2.3
特になし	11.8	14.0
無回答	3.6	0.0
その他	0.5	0.0

生物多様性についてどのような取り組みが必要かという問いに対して、市民並びに事業所を対象にアンケートを集計します。上記の結果から「森林の手入れと担い手の育成」、「外来生物の駆除」は大人も事業所も同じくらいの回答率だったことから、今最も必要とされていることが分かります。一方で、事業所は「環境教育の充実」をより多く求めており、市民は「生物多様性の啓発」との回答が多くなりました。

アンケートにご協力下さったかすみがうら市の皆様、ありがとうございました。

